

# 俳句のススメ

## 感謝から生まれる「三方よし」の実践と悦び



NPO法人 神田雑学大学 最高顧問

エッセイスト 吉田 悦花

### 空前の俳句ブーム

昔から「三方よし」が良いといわれてきた。「三方よし」とは、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三つの「よし」。売り手も買い手もともに満足し、

さらに社会に貢献できるのがよい商売であるという、近江商人の心得からきている。

今や暮らしの「三方よし」とは、毎朝の体温チェックやマスクの着用や手洗いの徹底で、「家よし」「外よし」「社会よし」。これらを順守すれば、「自分よし」「相手よし」「みんなよし」ということになるのか。

サステナビリティ、すなわち持続可能性という言葉をよく聞くようになった。これも、世のため、人のため、自分のため、さらに子孫のため、環境・社会・経済の三つの観点で取り組んでいこう、ということか。

私の趣味は、俳句と書道と江戸そばの食べ歩き。好きなものは、日本犬。

たとえば、日本では、富士山や和食という日本人の伝統的な

食文化が、世界遺産や無形文化遺産として認められた。つまり、

これらには普遍的な価値があり、次世代に残していくべきだということ。さらに、俳句や日本犬も、ぜひ世界遺産にと私は願っている。

そこで、作ってよし、読んでよし、発信してよし、ただいま空前のブームといわれる俳句をとりあげたい。

### 感謝心と生きる力が湧いてきた

私と俳句とのつきあいは、なんと三十年近くになる。複数の人が自作の俳句を出し合って発表する句会に、毎月最低二回は参加。コロナ禍も、俳句仲間の

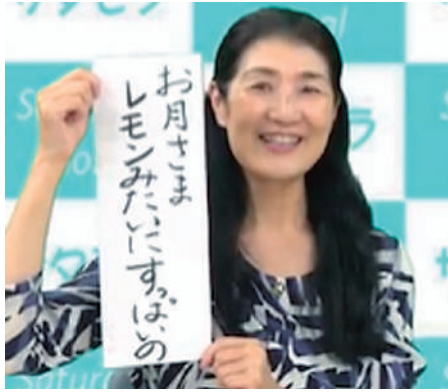
尽力によってオンライン句会を開催してきた。

句会では、男女とも、下の名前呼び合う。俳号はつけても、つけなくても。職種や役職や日常の〇〇さんの妻といった属性から解放される。こういう居場所があるということ。私にとつて、とても大事だ。

私が参加している句会は、二十代〜七十代と幅広い世代がいる。最近、俳句を始めたという方も。

季語を用いて五七五の定型というルール以外、特別難しいことはない。ペンと紙さえあれば良い。お金もさほどかからないので、長く続けられる。

俳句を始めたことで、良かったと思うこと。これはたくさんある。自然と向き合うことが多くなったせいも、変なこだわり



You Tube番組にて。子供俳句を解説

吉田 悦花氏

今年のお誕生日に寄せられた句会のお仲間などからのメッセージ



がなくなり、素直になった。くよくよしなくなった。たとえば、物事が自分の思いどおりに進まなくてもイライラしなくなった。出かけるとき、雨が降っていたとしてもガツカリしたりしない。それは恵みの雨であり、喜ぶべきこと。目指す電車に間に合わなかったとしても、逃してしまっただものは仕方がないと思えるようになった。次の電車を待つ間、空や雲の様子を眺めたりして、季節の移り変わりを楽しむ心のゆとりも生まれる。ありのままを受け入れ、これが良いと思える。季節の循環の中に生きている自分を意識すると、自ずと生かされている感謝の気持ちが生かされる。有り難いなあ、幸せ

だなあとと思う。すると、物事が正しく見えるようになる。生きる力が湧いてくる。

### わくわくするような句会の人間関係

「長い人生だから、どれだけの鮮度を保てるかが勝負ね」これは、毎月、句会でご一緒した女優の吉行和子さんの言葉だったか。

手軽にできて、言葉のセンスも磨けて、頭の体操にもなる人気俳句。吉行和子さんと富士真奈美さんは、この俳句に長年親しみ、三十年以上の俳句歴を持つ。

親友と自他ともに認めるお二人と句会をご一緒するたび、大好きな仕事に打ち込みながら、素敵に歳を重ねておられると感心している。

困った時に助けてくれるとか、なんでも話せるといったことを相手に一方的に求めたりしない。いつも一緒にいなくても、かけがえのない存在。離れていても

分かり合える。社会的地位や利害関係を抜きにして、お互いに素の自分でつきあえる。そんな心地よいオトナの関係が垣間見えるのだ。

そもそも句会の人間関係というのは、どこか独特だ。十年以上、同じメンバーが毎月、句会に集まっても、誰がどこに勤めているとか、結婚しているかといったことはお互い知らなかったりする。そんなほどよい距離を保った関係の人たちが、集まって句をつくり、それぞれの句を批評し合って真剣に遊ぶ。まさに「自分よし」「相手よし」「みんなよし」。

馴れ合いではないふんわりとした絆を大切にして、感謝し合いながらともに年を重ねていくかけがえのない仲間たち。いつもわくわくするような鮮度の落ちない、錆びない人間関係が、そこにはある。

### 俳句は言葉を育て心を育む

俳句を詠むことは内なる言葉を育てること、つまり心を育むことだと考えるようになった。言葉を感じとれるようになると、人の話に注意深く耳を傾けるようになる。相手を大切に思い、感謝の心が生まれ、笑顔の輪が広がる。

まさに「自分よし、相手よし、みんなよし」。俳句は、「三方よし」の実践と悦びを共有すること、なのである。

こうした俳句での実践から、私は、これからは何事も、三方どころか四方も五方も満足してもらえるように努めることが大切ではないか、と考えるようになった。自分に関わるすべての人たちに喜んでもらうこと、人様や社会のお役に立つことができただけで、断然気持ちいいし、楽しい。人生が豊かになる。

対談動画「おもしろ俳句」  
<https://youtu.be/e4Zhy48JDG4>

